

第1ステップ 進捗管理委員会の再構築計画の到達点の総括評価

進捗管理委員会は2008年9月から6回にわたる委員会を開催し、2009年6月、一年間の取り組みについて以下のような最終報告を行ないました。

2年間で基本的に計画された課題が着実に実施され、コープ商品の品質保証の取り組みが前進していることを確認しました。引き続き2009年度も日本生協連の最重要課題として取り組み、コープ商品と生協への信頼の再形成をめざしていくことを期待します。

◆検証を進める上で重視した3つの視点からの評価

1. 日本生協連がブランド責任者としての責任をまっとうできるか

「製造者と同等の責任をブランド責任者が持つ」との立場で、製造者・輸入者・帳合者など取引先の機能と役割を明確にした契約管理を行う体制をつくりつつあります。商品事故による被害拡大防止のための予兆の監視や、苦情や事故情報の会員生協とのコミュニケーションもスピーディーになるなど取り組みは前進しています。

2. 食品防御の視点を考慮した品質保証システムの構築になっているか

工場点検活動に食品防御に関わる項目や内容が盛り込まれ、物流倉庫では監視カメラの設置や入退出管理の強化が行われました。2009年度から3年計画で厚生科学研究「食品防御に関する研究」に取引先とともに協力していきます。このノウハウを製造委託工場全体に広げていくことを期待します。

3. 組合員・消費者とのコミュニケーションを円滑に図り社会的責任を果たしているか

この間の「アレルゲン表示」や「におい移り」問題では、商品リスクに関わる組合員とのコミュニケーションがとわれました。生協のもつ双方向の組合員とのコミュニケーション手段を有効に活用してリスクコミュニケーションを進めることと、社会的に話題となっている商品事故なども、積極的にわかりやすく伝えていくことを期待します。

◆今後の取り組みへの期待

「想定リスク要因別対策方針」にもとづくリスク管理の仕組みを食品安全マネジメントシステムへと発展させ日常活動として定着させるとともに、会員生協と日本生協連の品質管理基準やお問合せ対応の提携を強化し、標準化、共同化を進めることを期待します。

食品防御対策は短期的な一組織の取り組みで確立することは困難です。行政や専門家とネットワークを組み、社会的な視野で進めることを期待します。

また、組合員・消費者との積極的なコミュニケーションでコープブランドを再確立し、商品の様々なリスク情報についてもわかりやすく伝える役割を果たしてください。

以上の取り組みについて、進行状況について定期的に公開をし、引き続き、外部からのチェックを受けることを求めます。